# フィンランド家族の暮らし

## 子育て家族にやさしい暮らし

フィンランド社会の基本単位は依然として家族です。形態や世帯の人数に関係ありません。

幸福な国ランキングで常に世界トップにあるフィンランドでは、子どものいる生活はどのようなものでしょうか？ 根底にあるのは柔軟さと平等です。

この北欧の国では、子どもの誕生や成長につれ、あるいは人生の紆余曲折に際して、常に支援と解決策が用意されています。

子育て家族に優しい働き方は法律、労働協約、雇用主の前向きな姿勢と行動によって支えられています。2022 年に施行された新しい育児休業制度は、平等で多様な子育て、良好なワーク･ライフ･バランス、子どものウェルビーイングを促します。

私たちの質の高い教育システムと無料の学校給食は、保護者の日常的な負担を軽減します。それに加えて子どもたちの幅広い文化的活動趣味や習い事、身近にある豊かな自然が暮らしに彩を添えてくれます。

ページをめくり、フィンランドでの家族の暮らしや経験に触れてみてください!

アンナ･コッコ
プログラム･マネージャー、スペシャリスト
家族に優しい職場プログラム
フィンランド家族連盟

## 目次

04 どの家族にも平等な機会を
06 仕事と家庭の両立
12 大切にされる子どもたち
18 子どもの教育はトップレベル
22 柔軟な働き方
26 余暇の機会
30 環境と自然
32 質の高い住宅
35 フィンランドで働くために知っておくべきこと

発行: 2023年フィンランド外務省
編集: 駐日フィンランド大使館広報部
本文: Otavamedia, Katja Pantzar, Sami Anteroinen, Katja Alaja, Maarit Seeling
制作: Otavamedia
レイアウトデザイン: Otavamedia, Petra Antila
表紙: Otavamedia, Sabrina Bqain
写真: Otavamedia, Sabrina Bqain, Laura Vesa, Jonne Räsänen, Kaisa Siren

**フィンランドは
子どもと親を支援し
家族と社会全体の
ウェルビーイングも
重視しています**

# フィンランドの快適な家族生活

幸福のカギは、時間をかけて構築してきた北欧の強固な福祉インフラにあります

フィンランドは、世界幸福度報告によると2018年以来毎年、世界で最も幸福な国に選ばれています。

「幸福」という言葉は、文化によって概念が異なります。一部の国では、物質的な富を外見的に誇示することやキャリアの成功が、喜びの象徴なのかもしれません。北欧の世界では、満足できる暮らしとは、平等な機会、ウェルビーイング、信頼、安全と同じ意味をもちます。

それらは社会を構成する要素で、時間をかけ、努力を重ねて少しずつ築いてきたインフラです。フィンランドに住むすべての人に、背景、性別、収入に関係なく、医療から教育、自然に至るまで平等なアクセスを提供することを目的としています。

「子育て家族にとってフィンランドが優れているのは、子どもの安全とケアで、それは世界最高水準にあります。母子保健サービスを担う妊産婦・子ども健診クリニック（ネウボラ）や質の高い教育システムなどの公共サービス、父親が子どもたちと多くの時間を過ごすことなど、幸せな生活のカギがいくつもあります」と、タンペレ大学心理学名誉教授のマルック・オヤネンは言います。

## 日常が基本

フィンランドでは、幸福は基本的な権利から始まります。最もベースにあるのは機会の平等です。つまり、社会的、経済的地位、性別、資質に関係なく、すべての個人が自分の可能性を発揮し、自分自身の人生の道を進むための手段がなければなりません。

「生活の質を改善し、人々を幸せにするのは、日々の基本です」と、オヤネンは言います。

子どもたちの生活の質、権利、そして未来のために、可能な限り良い生活基盤が作れるよう継続的に投資と改善が行われています。平等とは、誰もが教育を受けられる機会があることを意味します。そのために、フィンランドでは就学前から大学まですべての人に対して授業料が無償となっています。

1906年、フィンランドはヨーロッパで初めて女性に国政選挙における投票権を認めました。1940年代には、ネウボラの設置が自治体に義務付けられ、すべての妊婦、子ども、およびその家族が無料で健診が受けられるようになりました。現在、フィンランドでは女性が労働力の49%を占めており、誰もがワーク・ライフ・バランスを維持できるよう、育休、フレックスタイム、リモートワークなどが働き方に取り入れられています。

公的機関や国民に対する高い信頼、報道の自由、汚職の少なさは、制度がうまく機能する秘訣でもあり、これらの背景には、長年の試行錯誤や発展の歴史があります。

「長きにわたる発展、経済成長、そして生活水準の向上、所得格差が比較的小さいこと、長寿化（栄養、健康、仕事の性質の変化）、教育と未来への信念、社会保障と文化的な寛容さはすべて、フィンランド社会の幸福に貢献しています」と、ヘルシンキ大学で経済社会史を専門とする大学講師ハンナ・クーシは語ります。

Photo: Jussi Hellsten

### フィンランドを幸せにするものとは?

世界幸福度報告書によると、フィンランドは2023年に6年連続で、世界で最も幸福な国に選ばれました。

この報告書は137カ国を幸福度でランク付けし、各国の人々が様々な生活の質の指標に基づいて自分の生活を評価しています。これらには、1人当たりのGDP、健康寿命、利用可能な社会的支援、選択の自由度、政府への信頼、民主主義の質、社会の寛容さ、腐敗の少なさなどが含まれます。

フィンランドでは、幸福の秘訣はあらゆる人の医療、貧困予防、所得保障、労働市場へのアクセスなど基本的なことにあります。

様々な指標の国際比較において、フィンランドは優れた成績を収めています。

たとえば、投票率、立法の独立性、国会の女性議員の数で測ると、フィンランドは世界で最も優れた統治（ガバナンス）を行っています。

政治的、社会的、経済的結束の指標でみると、フィンランドは非常に安定しています。

北欧型社会福祉のために、フィンランド人の80%が喜んで税金を支払い、96%が納税は重要な国民義務であると信じ、98%がフィンランドを維持するために税金が重要であると信じています。

Photos: Laura Vesa

# フィンランドを好きになる方式
# フランスとコロンビア人カップルの場合

アナ･ルシア･サッラベリー（37歳）はコロンビア出身で、グザヴィエ･サッラベリー（37歳）はフランス出身です。 2人は2016年にパリで出会い、2年後にフィンランドのタンペレに移住しました。この国際カップルが北国にやってきた動機は何だったのでしょうか?

「私がパリで財務管理の業務に携わっていた時、タンペレにある関連会社に経理部長の求人がでたのです。これに応募してフィンランドに移住してみたらどうかと私たちは考えはじめました」 と、グザヴィエは振り返ります。

電気通信エンジニアの経歴を持つアナ･ルシアは、自分の仕事にあまり満足していませんでした。北国での仕事の機会に興味が湧きました。唯一の問題は、2人がフィンランドについては、ほとんど何も知らなかったことです。「その後、少し調べてみたらフィンランドは美しい国で、子育てをするのに世界で一番良い国だとよく言われていることがわかりました」と、アナ･ルシアは語ります。

## 北欧の魅力

すぐに2人は、フィンランドには子育て家族を大切にする政治に加えて、先進的な社会福祉や優れた教育の制度、活気に満ちたビジネス環境があることを知りました。

「数日間タンペレを訪れてみましたが、実際に見てみてとても気に入りました」と、グザヴィエは言います。

その結果、夫妻は2018年9月にタンペレに移住しました。グザヴィエは現地の会社で働きはじめ、アナ･ルシアは翻訳会社で文字起こしのパートタイムの仕事を見つけました。 仕事の後、2人は新しい地元を知るために時間を費やしました。

スカンジナビア最大の内陸都市であるタンペレは、美しい湖と森林、そして穏やかな雰囲気が印象的な都市です。

「確かに、パリに比べるとかなり違いました。 タンペレの治安の良さをすぐに感じましたが、子どもをいずれ持ちたいと思っていた私たちにとって、これは非常に大事なことでした」と、グザヴィエは言います。

## 味わいのある四季

もうひとつ彼らが楽しんだのは、季節の変化でした。数年の間に、フィンランドにはクリスマス時期の「冬のワンダーランド」以外の部分もあることに気づきました。春、夏、秋にも独特の個性とハイライトがあり、楽しませてくれます。

「夏には湖で泳いで、冬にはその上を歩くんです」と、アナ･ルシアは笑います。

夫婦は季節の変化を愛するだけでなく、フィンランドの働き方の大ファンにもなりました。グザヴィエは、5時までに家に帰れるのは本当に素晴らしいと言います。

「ワーク･ライフ･バランスはとても良くなりました」

## 真意をくみとる

では、この国の人々はどうでしょうか？ グザヴィエとアナ･ルシアは、フィンランド人を完全に理解するまでには時間がかかったと白状します。少なくとも最初は、地元の人々は物静かで控えめな人たちに見えました。

「私たちは社交的で外向的な文化の出身なので、かなり慣れるのに時間がかかりました。 会話の際に自分たちから話しかけると、その後はすべてうまくいくことに気づきました」と、グザヴィエは言います。

だからといって、フィンランド人が不親切で思いやりがないと言っているわけではありません。実際、夫婦はフィンランド人がとてもフレンドリーだと感じています。グザヴィエは次のような例を挙げます。数年前、自宅のマンションのエレベーターの中で、タンペレを襲った熱波について近所の人と話していました。

「隣人は多くは語りませんでしたが、部屋を涼しくするためにエアコンを使ったか尋ねてきました。

私は、まだ使っていないがやってみると言いました」と、グザヴィエは話を続けます。

「それから数日後、私たちの郵便受けに誰かが印刷したフランス語のエアコンの取扱説明書が入っていました。」

その瞬間、グザヴィエはフィンランド人について重要なことを理解しました。「私が話していた男性は、会話にあまり乗り気でないようでしたが、私たちの困りごとを解決しようと全力を尽くしてくれたのは明らかです」と、彼は言います。「本当に素晴らしいことをしていただきました」

## みんなが王子様を歓迎

タンペレに3年住んだ後、夫婦に最初の子どもルーカスが生まれました。 タンペレ病院で素晴らしいケアを受けた夫妻は、今でもその経験に感謝しています。

「出産するなら、フィンランドより良い場所はないと思います。私たちは本当に素晴らしい経験をしました」。

新しい家族の一員とともに病院から帰宅した後、2人は素晴らしいサポートシステムが整っていると気づきました。「たとえば、新生児の親なら全員もらえる育児パッケージは、なんて良いアイデアなんでしょう。まだわからないことばかりの新米の親にとって、非常に実用的です」と、アナ･ルシアは振り返ります。

フィンランド政府からすべての親への支援として贈られる「スターターキット」には、新生児向けの衣類からおもちゃまで日用品が詰め込まれています。

「所得状況に関係なく誰もが手に入れることができると知ったとき、真の平等社会とは何かを伝えてくれるものだと思いました」と、グザヴィエは言います。



## 赤ちゃんのために

タンペレでの赤ちゃんとの生活は素晴らしいものです。公共交通機関はベビーカーに対応していて、どこでも近くに公園があります。「都会であっても、自然は5分もしないところにあると思います」と、アナ･ルシアは言います。

インタビュー当時、夫婦は第2子を迎える直前でした。 今回は可能な限りの最高のケアが受けられると、彼らはすでに知っています。

「フィンランドでは家族全員の幸福が重視されており、私たちはそれが本当に重要だと感じています」と, グザヴィエは言います。

今後、このフランスとコロンビア出身の家族にはどんな将来が待っているのでしょうか。 アナ･ルシアとグザヴィエは、少なくとも当面はタンペレに住みたいと言います。

「私たちはフランスとコロンビアにいる家族が恋しいので、いつか彼らの近くに引っ越すかもしれません。まだわかりませんが」

動画視聴リンク
アナ･ルシアとグザヴィエが、仕事と家庭を両立させる上でフィンランドの良い点を語っています。

### 知っていますか？

**1** フィンランドでは無料の妊婦健診が提供され、出産後は約1 年間の有給育児休業が取得可能です。

**2** フィンランドでは、保育料が手ごろで母子の権利が尊重されているため、母親はキャリアを築きやすくなっています。その結果、女性はフィンランドの労働力の 49% を占めています。

**3** すべての子どもとその家族には、全国にある母子保健サービスを担うネウボラで、無料で健診と実践的なアドバイスが提供されます。

**4** フィンランドは世界で最もワーク･ライフ･バランスが整っています (Kisi Work-Life Balance Index 2021)。

**5** 職場でも家庭でも、女性と男性は平等です。フィンランドの父親の 80% は有給の育休を取得しています。

**6** フィンランドは子どもの権利において世界 3 位です (KidsRights Index 2021)。

# フィンランドの公共交通機関は世界トップ

フィンランドでは公共交通機関に重点が置かれ、とくにヘルシンキ、タンペレ、オウルなどの大都市では、移動が非常に容易です。バス、電車、トラム、地下鉄は迅速かつ便利なサービスを提供しています。

ヘルシンキ都市圏の公共交通機関は、国際的な BEST 調査（ヨーロッパ公共交通サービス・ベンチマーク）で数回連続トップ3にランクされています。

フィンランド運輸通信庁Traficomによる全国輸送システム調査によると、73%ものフィンランド人が交通の機能と安全性に満足しています。 さらに、公共交通機関は継続的に発展し、国家目標である2035年までにカーボンニュートラル実現をサポートしています。

フィンランドの児童は、徒歩、自転車、公共交通機関を利用し自分で通学することが一般的です。 フィンランドでは、道路整備と冬用タイヤの着用義務により、冬でも交通はスムーズです。

フィンランドはまた、電気自動車の使用から都市公共交通機関のオンラインルートガイドに至るまで、持続可能なデジタル交通ツールの最前線にいます。

### グリーンな交通を支持

フィンランドは、スマートな土地利用計画に基づいて、持続可能で信頼性が高く、スムーズな公共交通機関を推進しています。この取り組みでは、輸送システムと車両のエネルギー効率を向上させる革新的なソリューションが重要な役割を果たします。フィンランドは、2030年までに交通排出量を50%削減することを目指しています。

Illustration: iStock

### 自動車から自転車・徒歩へ

国の歩行者・自転車推進プログラムは、幅広い施策を通じて、2030年までに徒歩と自転車による交通量を30%増加させることを目指しています。

### 歩きましょう

フィンランドでは、学校、スーパー、公園など日常的な移動の大部分は徒歩で行われます。 都会の中でも、徒歩で安全に移動できる環境が整っています。 2021年の調査によると、多くのフィンランド人が近隣の歩行環境に満足していることが明らかになりました。

### 自転車に乗りましょう

フィンランドでは自転車の人気が非常に高いです。自転車専用道路は全国に広く普及しており、多くのフィンランド人は自転車で学校、仕事、習い事に通っています。とくに自転車通勤が増加しており、多くの雇用主が自転車通勤者に職場のシャワーを提供しています。雇用主が支給する電動自転車も人気が高まっています。

レンタル自転車は、ヘルシンキ、エスポー、ヴァンター、トゥルク、ラハティ、タンペレ、オウルなどの大都市で人気があります。 自転車は夏の必需品です!

**交通事情:**

フィンランドでは、子どもたちが自転車に乗れるようになるのは、平均で

**4.8 歳**

ヨーロッパの他の地域に比べてフィンランド、ベルギー、オランダの年齢はかなり低いです。

短距離移動 (1 km)

**65%** は徒歩です。

平均通勤時間（片道）は

**23 分**

フィンランドでは、国会議員や閣僚が自転車通勤するのは珍しいことではありません。

Photos: Markus Sommers / Visit Finland and Sami Perttilä

# 子どもと若者が大切にされる国

「私の役割は、子どもの権利と最善の利益を守り、促進することです」と、子どもオンブズマンのエリナ・ペッカリネンは言います。「私たちはソフトパワーを駆使し、法的および社会的な意思決定においてあらゆる領域で子どもの権利を擁護し、考慮しています」

自律的で独立した政府機関である子どもオンブズマンは、フィンランドが1991年に批准した国連子どもの権利条約の履行を推進し、評価しています。この条約の 4 つの柱は差別の禁止、生命、生存および発達に対する権利、子どもの意見の尊重、そして子どもの最善の利益です。

「私たちのリソースは限られていますが、効率的に活動し、発言は重く受け止められています」と、2019年から重要なポストを務めているペッカリネンは言います。

実際のオンブズマンの職務は、発議、公式声明、指導とアドバイス、そして子どもたちや若者と対話し、その声を意思決定者に伝えるなど、様々な方法を通じて社会における子どもたちの最善の利益と権利を実現することです。

「たとえば、私たちが毎年行っている『チャイルド・バロメーター』では、6歳～7歳の子どもたちから、日常生活に関する体験を聞き取っています」と、ペッカリネンは言います。

オンブズマンが発案した人気プロジェクトのひとつは、「職場のこどもの日」です。この日には、職場が保育園や学齢期の子どもたち+ぬいぐるみに開放され、楽しく有意義な見学ができます。フィンランドの 800 以上の職場が参加する毎年恒例のイベントは、若者が様々な仕事について詳しく知る機会になっています。

「多くの子どもたちがその日を本当に楽しみにしています」と、ペッカリネンは言います。「雇用主や従業員にとっても、子どもの視点から物事を見ることは有益です」

## 子どもたちは大丈夫

フィンランドでは、親や保護者の状況や意向に関係なく、子どもそれぞれに人権があります。18 歳未満は子どもとみなされます。

子どもたちが直面している最大の課題のひとつは、こころの健康とウェルビーイングだとペッカリネンは言います。これは世界中の子どもと若者が直面している差し迫った問題です。

国際比較におけるフィンランドの子どもたちの状態は、全体的には良好であるとペッカリネンは指摘します。「健康で、高い生活水準を享受し、学校でよく学んでいます」

Photo: Lehtikuva

# 民主主義の実践

「未来は若者にあります」と、最近フィンランドの若者議会プログラムに参加した16歳のカテリナ・ケットゥネンは言います。

「私たちは自分たちに影響する問題に関心があります。政治制度がどのように機能しているかを見て理解すると、サステナビリティなどの重要な問題に自分たちも影響を与えることができると気づきます。すごいことだと思います」と、ケットゥネンは言います。

16 歳の ノーラ・ニグレンも、2022 年春の若者議会に参加しました。

「参加したことで、自分の意見を表明する勇気と自信がつき、それが重要であるとわかりました」。「自然が置かれた状況といった課題は、私たちにも影響があります。私たちはこの先もこの地球に住み続けるので、今、どうにかする必要があります」

ニグレンは、様々な情報に加えて、本物の国会議員などプログラムを通じて出会った人々から、貴重な洞察を得たと言います。

「多様な背景をもつ様々な年齢の人々と仕事をすることで、多くのことを学びました」と、彼女は言います。

### 一緒のほうがもっといい

フィンランド若者議会は、フィンランドの国会とオピンキルヨ（Opinkirjo）開発センターの協働事業です。こちらは、法律やナショナル・コア・カリキュラム（日本の学習指導要領に相当）に参加し、国の教育政策に関わっている非営利団体です。

「私たちは子どもや若者をもっと巻き込み、民主教育を強化しようとしています」と、オピンキルヨ開発センターのシニアスペシャリストであるティーナ・カルフヴィルタは言います。

オピンキルヨの主要な活動のひとつに、総合学校の最終学年（9年生）の生徒を対象とした議会クラブがあります。これには、2年ごとに若者に実践的な経験を提供するために開かれる、若者議会の本会議が含まれます。

「私たちのゴールは、若者にとって重要な課題に生徒が取り組み、意見を述べるよう奨励することです」と、カルフヴィルタは言います。

冒頭のカテリナ・ケットゥネンは、今回参加したことで新たな道を見つけました。「いつか国会議員になりたい！」と、彼女は言います。

フィンランドでは1998年から青年議会が運営されています。

Photo: Jussi Hellsten / Visit Finland

Photo: Lehtikuva

# 意思決定プロセスの一翼を担う

「国連ユースアジェンダ2030グループ」など様々なフォーラムにより、フィンランドの若者は民主化プロセスの積極的なメンバーとなって、社会に参加することができます。

ユースアジェンダ2030グループは、持続可能な開発に関するフィンランド国家委員会の一部として2017年に発足しました。民主的に選ばれた15歳から29歳のメンバーの声を確実に届けることが目標です。フィンランドが2035年までにカーボンニュートラルを達成するために、若者も共に解決策を探ることで、持続可能な発展の重要な部分を担っています。

グループのメンバーはインスタグラムなどのソーシャルメディアで積極的に活動しており、首相やフィンランド外務省代表との会談など、自分たちの活動について定期的に発信しています。

ユースアジェンダ2030グループは国家計画とSDGs履行に関わっています。また、COP（国連気候変動枠組条約締約国会議）などについて声明も発表しており、会議の目的や、フィンランドの生物多様性戦略との関連性について活発に説明しています。

Photo: Maarit Hohteri / City of Helsinki

### ヘルシンキでの取り組み

「ヘルシンキを皆にとってより良い場所にしていきましょう！　参加することで世界を変えることができます」と、オンラインでヘルシンキ青年議会が明るく呼びかけています。

ヘルシンキ青年議会は 13 歳～17 歳までの30 名で構成され、2 年ごとに民主的に選出されます。 議会の任務は、市の事業計画や意思決定において若者の声が確実に反映されるようにすることです。

ヘルシンキには、その他にも包括的な発案の枠組みとして、住民のアイデアを実現するために880万ユーロを割り当てる市民参加型予算制度「OmaStadi（フィンランド語で「自分の町」の意）」があります。 市民による発案は、12歳以上のヘルシンキ市民全員が投票可能な提案となります。その後、市は最も多くの票を獲得した提案を実行します。

また、小学校から高校・職業学校に通う子どもを対象にした市のルーティ（Ruuti）資金プログラムがあり、学習環境の快適さと機能性の改善を望む生徒のグループに補助金が出されます。

# フィンランドの子育て家族支援

Photos: Jussi Hellsten, Sakari Piippo, Mikko Huotari and Emilia Hoisko / Visit Finland, Kela

フィンランドでは、妊娠すると、母子の健康状態を診るため公共の出産・子育て家族サポートセンター「妊産婦・子どもネウボラ」での健診と実践的なガイダンスが始まります。

フィンランドの出産病院は質が高く、出産は安価です。

育児パッケージは、衣類や小物など新生児ケアの必需品が揃ったスターターキットで、赤ちゃん誕生前に届きます。

ネウボラでは、出産前から就学前までの子どもと家族の健康と、ウェルビーイングを確認します。

赤ちゃんのケアをするための育児休業（親休業）は、母親と父親の両方に与えられます。

親休業中は、320勤務日（親1人当たり160日）の育児手当が支給されます。

柔軟な働き方により、時間の調整やテレワークなどが可能になり、幼ない子どもの世話がしやすくなっています。

児童手当は育児にかかる費用を援助するための手当てで、子どもが17歳になるまで毎月支給されます。

就学前教育から大学まで教育は無料です。

## フィンランドでは母の日を5月に父の日を11月に祝います

### 手厚いケア

フィンランドの乳幼児死亡率は世界でも極めて低いレベルにあります。子どものヘルスケアサポートは、誕生前から就学するまで、ネウボラでの継続的な健診を通じて行われます。小学校から高校までは、学校保健師や医師による定期的な健診が実施されます。

医療制度を補完する団体が数多く存在し、たとえば1920年設立のマンネルヘイム児童福祉連盟（MLL）は「すべての子どもには、良い幸せな子ども時代を過ごす権利がある」のスローガンの下、活動しています。

mll.fi

# 早期教育とケアが生涯学習の基礎に

フィンランドの父の日にあたる11月中旬の日曜日、ディムレスクー家は共に時間を過ごしながら特別な日を祝っています。

カイサ・ディムレスクと夫のフロリン、2人の子どもたちララ（12歳）とテオ（10歳）は、食卓の周りに集まっています。彼らの家はタンペレから約16キロ東のカンガサアラにあります。子どもたち2人は、フィンランドの保育園と小学校での日々について語ります。

「保育園での良い思い出は、朝のポリッジです」と、テオは言います。

フィンランドの公立保育園では、朝食、温かい昼食、おやつなどをすべての子どもたちに提供し、1日の活動に必要な栄養を補給しています。

ディムレスク家の子どもたちは2人ともフィンランドの公立保育園に通いました。

ララは1～2歳のとき、保育士が少人数の子どもを自宅で預かる家庭的保育所に通いました。

弟のテオが生まれた後、ララは6歳でプレスクール（就学前教育）に通いはじめるまで、別の家庭的保育所を利用しました。テオはプレスクールに通う前に、通常の保育園で2年間過ごしました。

「私たちは子どもたちの保育園生活から多くのことを学びました」と、カイサは言います。「私一人では、毎日の外遊びから工作、パン作り、歌、その他のグループ活動まで子どもたち同士が一緒にやるようなことを与えられませんでした」と、彼女は振り返ります。

さらに保育所が近かったため、送り迎えが楽だったとカイサは言います。

## 国際的なルーツ

フロリンはルーマニア出身、カイサはフィンランド出身であるため、バイリンガルなディムレスクー家は家庭でフィンランド語とルーマニア語を話します。 カイサは調達マネージャーとして働き、ITが専門のフロリンは、フィンランド語学習者を支援する、やさしいフィンランド語の本シリーズも出版しています。

文化的、言語的に多様なことは、彼らの生活を豊かにしています。フロリンはフィンランド語、ドイツ語、英語も話し、子どもたちの言語学習をサポートすることができます。「でも、彼らは学業に関してはかなり自主性をもってやっているので、あまり手伝う必要はありません」と、彼は微笑みます。

ララとテオは2人ともカンガスアラのスオラマ学校に通っています。テオは小学4年生、ララは最終学年にあたる6年生です。

「学校が大好きです」と、ララは言います。趣味は地元のクラブでアクロバティックな体操をしたり、ビルカンマー音楽学校で打楽器を演奏したりすることです。 テオは、フィンランド最大のサッカークラブであるIlvesでサッカーをしており、ドラムのレッスンも受けています。 夏の間、家族は35キロ離れたオリヴェシのエラヤルヴィに向かい、カイサの両親の別荘で過ごします。

フロリンは最近、家族でルーマニアを訪れた際に親戚が、子どもたちにルーマニアに住むことを考えたことがあるか尋ねたときの話をしてくれました。「ララはすぐに『それは無理。フィンランドの学校が好きすぎるから！』と、答えたんです」

Photos: Laura Vesa

# 平等を起点とする フィンランドの教育制度

1948年以来、フィンランドはすべての児童・生徒に無料で食事を提供してきました

Photos: Jussi Hellsten, Laura Dove / Visit Helsinki and Elina Manninen /Visit Finland

フィンランドの教育制度が成功している理由のひとつに、人材への投資があります。端的に言えば、人材こそ国の最も重要な資産とみなされています。

総合学校は1年生から9年生までで、7歳から17歳まで無料です。教育はフィンランドに永住するすべての子どもに義務付けられています。

保育園では、幼い子どもたちを競争させるよりも、自分の長所に焦点を当てることが奨励されています。子どもの個々のニーズに合わせてサポートする一方、社会的感情スキル、安全意識や人との関わり方を育みます。

保育料は少額ですが毎月かかります。ただし、低所得者は補助を受けることができます。

## 教育のしくみ

フィンランドには、良い生活を送るために必要な知識とスキルを学び、習得する機会が全ての人に与えられるべきだという強い信念があります。子どもたちが自宅近くの学校に通えるように、幼児教育と初等教育が提供されています。子どもたちには、学習教材や備品、給食も無料で提供されます。

科学的研究に基づいて、フィンランドの教育制度は子どもの発達、学習、ウェルビーイングを幼児教育からサポートしています。

総合学校教育は7歳から始まり、その前の1年は入学準備のための就学前教育が義務になっており、費用はかかりません。

教師の教育レベルは高く、通常、修士号以上をもっています。人気があり、高く評価されている職業です。教師は児童を励ましてやる気を引き出し、学業成績ははじめのうちは評価対象としていません。

1～2年生の子どもたちは学校が比較的早く終わるため、学校敷地内に放課後児童クラブがあり、両親や保護者がまだ仕事をしている間、幼い子どもが一人で過ごさなくてもいいようになっています。

総合学校卒業後は、誰もが進学する必要があります。これには普通高校と職業学校、さらには大学が含まれます。

職業学校は人気の選択肢で基礎教育を終了した学生の約半数が出願しており、国際的に見ても例外的に多くなっています。

義務教育は学習者が18歳に達するか、高校卒業資格や職業資格を取得すると終了します。

あらゆる段階で生涯学習が奨励されています。知識に基づいた社会形成を目指し、成人教育、生涯教育、職業再訓練には数多くの選択肢があります。

## 外国語での学校教育

フィンランド人の英語力は世界トップレベルのため、外国から来た人も比較的簡単に友達を作ることができます。 学校での外国語学習は小学1年から始まり、英語が最も人気の選択言語です。

公用語であるフィンランド語とスウェーデン語以外の言語で学ぶこともできます。英語を基本とする学校では教育は完全に英語で行われ、同時にフィンランド語も学び、さらに第二言語としてフランス語、ドイツ語、スペイン語などを選択できます。

### 英語でのフィンランド留学にようこそ!

フィンランドには13の大学と22の応用科学大学があり、英語で学べる500以上の学士と修士のプログラムが提供されています。英語で博士号を取得することも可能です。

フィンランドには2万人以上の留学生がいます。

すべての大学および応用科学大学には、留学生向けの奨学金があります。

2022年の新しい法律により、留学生には学業終了まで滞在許可が与えられるようになりました。学生と研究者は、卒業後に職を探すため2年間有効な許可が得られます。

studyinfinland.fi

## 教育の歴史

**20 世紀初頭**
すべての子どもたちに一般初等教育を提供するために、フィンランドの全自治体に小学校が設立されました。

**1925年**
最初のナショナル・コア・カリキュラム策定。1800年代、高校はありましたが、大幅に増加したのは、第二次世界大戦からの復興後でした。

**1970年代**
フィンランドの学校制度は大幅に改正されました。総合的な学校改革により、初等学校とグラマースクール制度の時代が終わり、9年間の総合学校制度が導入されました。

**今日**
働き方とテクノロジーの急速な進歩により、新たな課題が生まれ、新たなスキルが必要となります。 これまで、フィンランド人は高いデジタルスキル、批判的思考、知識の創造的な応用能力を備えてきました

**将来**
何が待ち構えようとも、生涯学習のアプローチによって誰もが未来を見据えて学び、準備することができます。

Photos: Jonne Räsänen

# 子どものいる従業員のケアも ウェルビーイングに必然

ヘルシンキのおしゃれなプナブオリ地区に位置するCHAOS Architectsのオフィス最上階にある天窓から光が差し込んでいます。1800年代後半に建てられた歴史的な建物には、かつて菓子工場の本社があり、今は8つの異なる国籍を持つ多様性に富んだ15名の、居心地のいいオフィスになっています。チームを構成するのは、アルメニア人、フィンランド人、グルジア人、ドイツ人、メキシコ人、スペイン人、パキスタン人、ベトナム人です。

ナタリア・リンコンとユハ・プオティラは、カラフルなクッションが置かれたソファに座って、子どもたちが好きな映画について笑いながら話しています。

「アニメなら何でもいいよ!」 生後8か月から8歳まで3人の子どもを育てるCRO（最高収益責任者）のプオティラは言います。11歳の子どもの継母であるリンコンは笑って、うなずきます。彼女は都市不動産予測を専門とする会社の CEO 兼共同創設者です。

エンターテイメントはCHAOSで働くのに相応しいテーマです。これは社会活動のひとつとして、従業員が夜の映画鑑賞のために居心地の良いオフィス空間を使用できるようにしているからです。

「私たちのチームは、チームビルディングの活動から仕事の進め方に至るまで、あらゆる部分に皆を巻き込んでいます」と、リンコンは言います。「上下関係はほとんどありません。株主との会合であれ、問題解決であれ、相手が何をしているのかを理解し、相手と彼らの役割を尊重することから責任感が生まれます」

2011年に恋愛関係のためメキシコからフィンランドに移住したリンコンは、フィンランドの現実的な働き方は素晴らしいと語ります。「とてもしっかりしていて、上下関係がほとんどありません。つまり、お互いにオープンに直接話すことができるため、仕事の流れが良くなります」

### ウェルビーイングのインフラ

育児休業、フレキシブルな勤務時間、テレワークといった働き方により、子どものいる家庭はもちろん、誰もがワーク・ライフ・バランスをとりやすくなっています。

「子どもを保育園や学校に迎えに行く必要がある場合、または別の用事がある時はオフィスを出て、後から在宅で仕事を続けることができます」と、プオティラは言います。

OECD（経済協力開発機構）によると、先進国の中で父親が母親よりも学齢期の子どもと過ごす時間が長い国はフィンランドだけです。

プオティラは、フィンランドで子育てするのはメリットが大きいと考えています。「たとえば公営のネウボラ、保育園、無料の教育制度のおかげで、親は働くことができ、その間子どもたちは最高のサービスが受けられます」と、彼は言います。 フィンランドでは、携帯電話、コンピューター、追加のスクリーン、高速インターネット接続など、在宅勤務に必要なツールを雇用主が提供するのが一般的です。

社員のケアは、全体的なウェルビーイングを高めるため、ワーク・ライフ・バランスにまで及びます。

「政府もウェルビーイングのために休憩や休日を取ることを推奨していて、年に1か月の休暇が標準とされているなんて、かなり寛大だと思います」と、リンコンは言います。

### 信頼に基づいた社会

優れたガバナンスは幸福で機能する社会へのカギのひとつですが、制度や他人への信頼もフィンランドの社会資本の重要な要素です。

「国民の間には厚い信頼があります」と、リンコンは言います。

「それは自由と柔軟さにつながります」と、プオティラは続けます。

国際的な職場の場合、新入社員の研修はオフィスの外で行われます。

最近フィンランドに移住したばかりのCHAOS Architects の新入社員がアパートの購入を検討していたとき、同じチームの同僚たちが彼のために下見に行きました。

リンコンは、ビジネス・エコシステムの観点から昼食の補助、美術館やジムのチケット、通勤用の電動自転車など、福利厚生に関して従業員の要望に耳を傾けます。

改善の余地があるあるとすれば、それは地域社会の輪に入ることだとリンコンは言います。「外国人として海外に移住するとネットワークを失います。時には、すべてを理解し、自分の道を見つけるのが難しいこともあります」と、彼女は言います。

# 持続性のあるワーク・ライフ・バランスの基盤をつくる

「フィンランドは家族をもつ人の働き方に関して非常に柔軟です。 就労者の労働条件に対する満足度は EU の中で最も高いレベルにあります」と、ヘルシンキ大学上級講師のマルック・シッポラは言います。シッポラの学術的専門分野は労働学研究です。

彼によると、柔軟な働き方は、従業員に時間を調整する権利を認めた1996年の労働時間法などのいくつかの節目を経て、何十年にもわたって根付いてきました。

2010年の時点で既にフィンランドの勤務形態は、世界で最も柔軟だと言われていました。世界的な会計事務所グラントソントンが2011年に行った調査では、フィンランド企業の92%が、従業員にフレックスタイムを認めていることがわかりました。

Photos: Marek Sabogal and Emilia Hoisko / Visit Finland, iStock

2020年に施行された新しい法律により、従業員は労働時間の半分以上をいつ、どこで働くかについて雇用主と合意することができます。こういったことが、フィンランドを「働き方改革の約束の地」に導いたと、シッポラは言います。

労働市場と働き方の変化によって、知識労働者や、時間と場所に依存しない人気上昇中の働き方を望む人に新たな可能性をもたらしています。

2020年の新しい法律により、一部の従業員は週平均40時間をいつ、どこで働くかを柔軟に選択できるようになりました。たとえば子どもの世話をするために、仕事を早く始め、早く終わらせたりすることができます。また、曜日や時間を決めてセカンドハウスなどの遠隔地から働くことも可能です。休暇を増やすために、より長く働いて、休みを「預金」することも選択肢となります。

多くの人がノートパソコンと良好なネットワークを駆使してテレワークできる仕事に就いているため、フィンランド全土で信頼性の高い高速Wi-Fiを手頃な価格で利用できることは大切な意義があります。

### 信頼性の文化

シッポラによると、柔軟な働き方が成功している理由のひとつは、強い信頼の文化にあります。「ユーロバロメーターの調査によると、フィンランドでは自国民や制度に対する信頼が、ヨーロッパ諸国よりも高いことが分かりました」と、彼は言います。

シッポラは、強力な労働組合、労働協約の調停、高レベルの職場訓練と教育、研究者と国民の意見に耳を傾ける政府が、フィンランドの労働市場の発展に大きく貢献していると強調します。

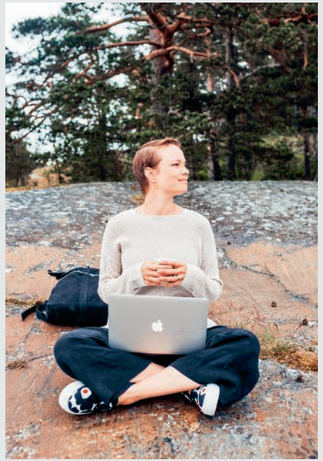
海外から来た人にとってもうひとつの強みは、多くの職場で英語が広く使われていることです。 フィンランドの公用語であるフィンランド語とスウェーデン語を話せなくても、医療から銀行取引まで、あらゆることを英語で比較的簡単にすませることができます。

「80カ国を対象にした調査で、フィンランドは英語力で6位にランクされています」と、シッポラは言います。「これは、フィンランド人が外国語である英語をかなり流ちょうに話すことを意味します」

また彼は、一部の業界では依然として性別による偏りがあり、まだやるべきことはあると指摘する一方、フィンランドはエコノミスト誌の「ガラスの天井指数」で第3位に入っていると紹介。これはOECD加盟国のなかで、労働力に占める女性の役割と影響力を測るもので、順位が高いほど良い結果となります。

**世界最高のワーク・ライフ・バランス**

フィンランドの首都ヘルシンキは、世界40都市を比較した結果、ワーク・ライフ・バランスが世界で最も優れた場所として選ばれました。Kisi Work-Life Balance Index 2022は、仕事の大変さ、制度的サポート、法律、住みやすさに関する20の要素を測定しました。この指数によって、どの都市が政策や都市インフラを通じて直接的および間接的に健全なバランスを奨励しているかがわかります。



Photos: Miika Kainu and Kaisa Sirén

# 四季折々のレジャーアクティビティの世界

フィンランドのラップランドのイメージといえば、多くの人にとって冬のワンダーランド、トナカイ、オーロラ、サンタクロースでしょう。

四季がはっきりしていて多様性に富んでいるこのフィンランド北部地域は、北極圏に位置し、18万人が住んでいます。

「私たち家族は自然の近くに住んでいて、自由時間は大体アウトドアを楽しんでいます」と言うのは、マリア・フフマルニエミ。ビジュアルアーティスト、研究者、そして教師として働いています。イギリス人の夫オリバー・コーイはウェブ開発者で、夫婦には2人の息子、オスカル（6歳）とフーゴ9歳）がいます。

フフマルニエミ=コーイ一家は、ラップランドの中心地ロヴァニエミに住む国際結婚をしている家族です。彼らの家は、建築界の巨匠アルヴァ・アアルトによって設計された集合住宅やアパートが集まるコルカロヴァーラ地区にあります。

「とても治安がいいので、子どもたちは庭で近所の友達と自分たちだけで遊ぶことができます」と、マリアは言います。この住宅地には他にもイギリス人とフィンランド人の家族が何組か住んでいるとも語ります。

## 幅広い選択肢

家族それぞれに好きなレジャーアクティビティがあります。

「僕は釣りが大好きです」と、フーゴは言います。近くの湖や川でカワカマスやスズキなどを捕まえます。

弟のオスカーは、大きくなったら博物学者になりたいと思っています。

「両親が近くに住んでいて、一緒に森へキノコを採りに行ったりしてくれたおかげで、子どもたちは自然のなかで過ごすことが好きになりました」と、マリアは言います。

フィンランドの他の地域と同様、ロヴァニエミにも、標識が設置され、メンテナンスの行き届いたサイクリングコースが整っています。

「簡単で利用しやすいので、子どもたちは私とどこにでも自転車ででかけます」と話すオリバーは話し。2年生のフーゴは毎日自転車で登下校しているといいます。

アウトドアからインドアまで、アクティブな家族には様々な趣味があります。フーゴはかぎ針編みと木工に熱中しており、ミニカーなど様々なものを木で作っています。オスカーはサーカス教室に通い、そこで多彩な技を習得しています。

冬の間、クロスカントリースキーは家族4人にとって人気のスポーツです。

サンタクロースの故郷に住むことには、他にも利点があります。

「ロヴァニエミ中心部はクリスマスシーズン中は賑わい、海外からの観光客もたくさん来て嬉しいですが、夏になるとまた静かになります」と、オリバーは言います。

動画視聴リンク
マリアとオリバーが、家族とラップランドの自然との特別なつながりを語っています。

Photo: Vesa Laitinen / Visit Helsinki

### 芸術と文化に触れる機会

子どもたちが芸術を体験したり参加したりできるプログラムの選択肢は豊富にあります。

ヘルシンキの文化キッズプログラムは、2020 年以降にフィンランドの首都で生まれた子どもを対象としています。子どもたちは、学校が始まるまで毎年2つのイベントへの招待状を受け取ります。乳児、幼児、幼い子どもたちが、家族や友人と一緒に様々な文化体験を楽しめるようにする狙いです。これらのイベントは無料で、オペラから演劇、サーカス、ヴィジュアルアートまで多岐にわたります。

フィンランドには、全国に写真、デザイン、アート、手工芸品、自然史などを展示する美術館や博物館が千以上あります。多くはベビーカーでアクセス可能です。

フィンランドでは、光、食、音楽に至るまで、様々なテーマのフェスティバルやコンサートが毎年数多く開催されます。

kummilapset.hel.fi
festivals.fi/en

# 家族全員が楽しめる娯楽

すべての人へ平等に余暇の機会が与えられることは、フィンランドの幸福に欠かせません。

目標のひとつは、子どもや若者が学校を通じてスポーツやその他の趣味に無料で参加できるようにすることです。

公的資金により、フィンランド全国の学校で何千もの活動グループを組織することが可能です。教育文化省によると、50万人近くの子どもや若者がこうした活動に参加しています。

### 活動的な子どもたち

市や自治体が提供するサービスに加えて、フィンランドの子どもたちは平日の夜や週末にバドミントンからバレエ、ピアノのレッスンに至るまで習いごとやスポーツに熱心に参加しており、その費用の多くはそれぞれの家庭が負担しています。

フィンランドの図書館ではスポーツ用品や楽器を貸し出しており、予約可能なデジタルゲーム・スペースもあります。全国各地の青少年センターは、レクリエーション活動に必要な場所を提供しています。

アドベンチャーパークやアクティビティパークでは、水中競技からトランポリン、バーチャルゲーム、スキー、屋内外のクライミング、遊歩道、ジップラインなど、幅広い活動を用意しています。

冬には、アルペンやクロスカントリーなどのスキー、アイススケート、凍った湖や海でのスケート、寒中水泳、スノーシューなど、管理の行き届いた様々なアクティビティが屋外で楽しめます。



### ご馳走を育てる

都市部の市民農園はフィンランドでは長い歴史があり、今でも人気があります。野菜、ベリー、花の栽培だけでなく、食料生産の持続可能な方法ともなっています。

活動を行っている団体のひとつに、1930年設立のNPOフィンランド市民農園連盟（Finnish Federation of Allotment Gardens）があります。ヘルシンキから北極圏のロヴァニエミまで、3,700人の市民農園経営者を束ねています。

もうひとつの団体「ドードーの都市農家」（Dodo's Urban Farmers）は、「環境問題は都市で解決される」のモットーを掲げるフィンランドの環境 NGOです。」Dodoは当初、ヘルシンキのパシラにある線路間の細長い土地で野菜を栽培。その後、利用する土地を増やし、都市養蜂を手掛けるまでに拡大しました。

siirtolapuutarhaliitto.fi
dodo.org

Photo: Julia Kivelä / Visit Finland

Photo: Moomin Characters Tm & Dennis Livson / Visit Finland

### フィンランド的な現象：躍動するムーミンたち

世界的に有名なフィンランドの作家兼芸術家トーヴェ・ヤンソンが生み出したムーミンは、美術館からテーマパーク、街中のカフェや食卓まで、あらゆる場所で見られます。愛すべきキャラクターが描かれたマグカップはコレクターズアイテムです。

ムーミンワールドは、夏の人気テーマパークです。フィンランド南西部ナーンタリの旧市街隣に位置する、風光明媚な群島の一つにあり、あらゆる年齢の子どもたちがお気に入りのキャラクターに出会えます。

タンペレには世界で唯一のムーミン博物館があり、さらにレッパヴィルタにある「ムーミン氷の洞窟」（Moomin Ice Caves）では、氷で覆われた地下の冒険が楽しめます。

ヘルシンキの至るところに、トーヴェが暮らし、仕事をし、過ごした場所の数々を見ることができます。その中には、多作な創作者にちなんで名付けられた公園があるカタヤノッカ地区も含まれます。

moominworld.fi
muumimuseo.fi/en
icecave.fi
moomin.com

# 広がる清らかな自然

「自然は私たちにとって不可欠なライフラインです」と、フィンランド環境研究所（SYKE）生物多様性センターのペトリ・アールロス元所長は言います。彼は専門顧問として最近環境省に戻るまで、10年間この研究所に務めました。

フィンランドの国土の70％以上は木々で覆われ、約10％が湖で覆われています。

フィンランド人の約80％は、森林が自分たちにとって重要であると考えています。自然の中で家族や友人と過ごす時間は幸せな気持ちにさせてくれます。

「フィンランドでは自然が身近にあります。つまり、家族のみんなが簡単に自然にアクセスできるのです」と、アールロスは言います。

都市計画および地方自治体計画では、緑地や水辺の近くに住宅を建て、誰もが自然の近くで暮らせるように考慮しています。

Photo: Jussi Hellsten / Visit Helsinki

### 新鮮な空気

「空気の良さは私たちの健康と幸せにとって不可欠です」と、ヘルシンキ地域環境サービス（HSY）で空気の質を専門とするオウティ・ヴァケヴァは言います。

大気汚染物質は人間の健康に有害です。フィンランドの大気汚染防止政策の目標は、環境ときれいな空気を守り、生物多様性も保護することで人々のウェルビーイングを向上させることです。

フィンランドの空気の質は国際基準に照らしても良好であり、様々な方法でモニタリングされています。

ヘルシンキ首都圏では、空気の質をリアルタイムで測定できます。空気の質は、街路の粉塵、排気ガス、他の場所から運ばれる大気汚染物質、建設現場からの粉塵などによって影響を受けます。

「ヘルシンキ首都圏は、空気の質に関しヨーロッパで最もきれいな地域のひとつです」と、ヴァケヴァは言います。「人口、交通、エネルギー生産の増加などにもかかわらず、大気汚染物質の濃度は一般的に減少か、長期にわたって安定した状態にあります」

### 食べ物は森から食卓まで

フィンランドの森林の3分の2は一般人が所有しています。それでもフィンランドの「自然享受権」によって、所有者に関係なく、誰もが森でハイキングやキャンプをしたり、キノコやベリーの採集ができます。

ベリーやキノコ狩りは人気の娯楽です。キノコやベリーの多くには必須栄養素やビタミンが豊富に含まれているため、健康的な食事を補う食材集めに最適です。

野生のベリーは約50種類あり、そのうち37種類は食べられます。

「人口が比較的少ないフィンランドには食用のベリーが豊富にあります」と、環境専門家のペトリ・アールロスは言います。

「自然の産物である食用ベリーのうち、毎年収穫されるのはわずか2％なので、まだまだ十分にあります」と、彼は言います。

### 身近な自然

フィンランドには市内の公園、国立公園、森林などあらゆるところに自然が溢れ、多くは湖、川、海の近くにあります。

首都圏からラップランドまで、41の国立公園があります。 これらの自然保護地域は、生物多様性を守り、誰もが自然と楽しむ場所を提供することを使命としています。

たとえば、ヘルシンキから約35km離れたヌークシオ国立公園には、複数のハイキングコースがあり、テントや伝統的な木製小屋でのキャンプなど、様々なアクティビティが可能です。

中央公園や森林の多くは都市や郊外にも広がり、徒歩、自転車、車、公共交通機関で簡単にアクセスできます。

Photo: Suvi Mansikkasalo / Visit Finland

Photo: Jussi Hellsten / Visit Helsinki

### 環境教育

家族や保育園の先生などが乳児や幼児を屋外に連れ出すと、森、湖、海などとの触れ合いが始まります。

保育園や学校を通し、環境教育は子どもたちと若者に様々なプログラムを提供します。 その目的は、学習を通じて生態学的に持続可能な未来への意識を高めることです。

自然環境に関する学校の活動は、幼児教育のナショナル・コア・カリキュラムに基づいています。

毎年約20万人の子どもや若者がプログラムに参加しています。

活動は一年中屋外だけでなく、屋内の教室、自然センター、博物館でも行われます。

# 家族向けの良質な住宅

初雪が降りはじめ、柔らかな雪が空からそっと舞い降ります。ヘルシンキのヤトカサーリ地区にある居心地の良いモダンな集合住宅のなか、リンヤー家は近所の人たちと共用の中庭で会うため、外出の準備をしています。

ソホヴィ・リンヤとマルクス・リンヤはオープンキッチンとリビングルームのある空間に座り、2人の子どもたちペッピ(9歳)とアルヴァ(7歳)は、ソファの近くに吊るされた木製の吊り輪で遊んでいます。上の階では、家族の最年少アモス(1歳)が昼寝から目を覚ますところです。

「近所の人たちとは、10年前に集合住宅の建設計画の初期段階で知り合い、それ以来お互いのことを知っているので良い友人です」と、ソホヴィは言います。

## 協力して創る家

リンヤー家はヤトカサーリ島の、8年前に共同開発で完成したアパートと集合住宅が集まるモダンな区画に住んでいます。このスタイルの集合住宅では、最初の基礎工事が始まるかなり前から、住宅所有者が将来の隣人、さらに建築家、建設業者と協力しはじめます。

ソホヴィとマルクスが住むのは90㎡の3階建て住宅で、部屋のサイズや数から、キッチンのカウンターに使用する資材の種類に至るまで、様々な部分に関わることができました。

「望み通りにできること!」集合住宅の利点について尋ねられると、マルクスは笑いながらこう言います。

「新しい家を探していたとき、この選択肢があることが分かりました。アパートと一軒家のいいところをとった、ハイブリッドな解決策だと思いました」と、彼は振り返ります。

複合施設内には、典型的なフィンランドのサウナ、子どもの誕生日会をたくさん開催してきたコミュニティルームなど、共有スペースがいくつかあります。

徒歩圏内には、保育園、小学校、遊び場、体育館、本が豊富に揃った児童図書館、食料品店など、必要なサービスが揃っています。さらに、緊急にベビーシッターが必要なときなど、近所の人に頼れる安心感もあります。

「集合住宅における良い意味で最大の驚きは、ここの強いコミュニティ意識です」と、ソホヴィは言います。

動画視聴リンク
フィンランドでの居心地の良い共同住宅や、質の良い暮らしについて語っています。

Photos: Sabrina Bqain

# 高品質な住宅の基礎づくり

都市計画に関してフィンランドが優れているのはエンジニア気質です。

「フィンランドの住宅は全体的に高品質です」と、ヘルシンキ都市地域研究所「ウルバリア」の所長であるマリ・ヴァーットヴァーラ教授は言います。「エンジニアの多い国に住んでいるおかげです」

ヴァーットヴァーラ所長によると、他にも重要なメリットとして、国や都市がしっかりしていること、きれいな水道水や室内空気の質に対する厳しい規制などを挙げています。

## 一般的な住宅のトレンド

ヘルシンキ市が発行する情報サイトinfoFinland.fiによると、フィンランドの人口550万人の約半分は、一戸建てまたは連棟式住宅に住んでいます。3分の1近くが共同住宅で暮らしており、特に大都市中心部や近郊に住んでいる人ではこの傾向が高くなっています。フィンランドの住宅の平均的な広さは、1人当たり約40㎡です。

人口の約半分が地域暖房の建物に住んでおり、他はたいてい地熱と電気を利用しています。フィンランドの一般的な室内温度は21°Cですが、これは建物が頑丈で、適切に断熱されているおかげでもあります。

フィンランドの集合住宅や一戸建てには通常、各戸にサウナがついています。比較的新しい共同住宅も同様です。古い共同住宅の建物では、共用スペースにサウナが設置されていることがよくあります。

フィンランドでは国民の約3分の2が持ち家に住んでいます。

## 身近な自然

ヤトカサーリの海辺地区と同様、国のほとんどの地域には歩行者用道路と自転車専用レーンが整備され、緑地が都市計画に大きな役割を果たしています。

ヤトカサーリは、ヘルシンキの南西端に市内中心部の延長として過去20年にわたって建設され、都市計画における最良なノウハウが詰め込まれています。それには住民のニーズや要望に耳を傾け、住民が開発プロセスに参加できるようにすることなどが含まれますと、ヴァートヴァーラ氏は言います。

「フィンランドでは上下関係があまりないので、全員の声が届きます」と、彼女は言います。

世界が変化するなか、都市計画における課題のひとつは、世界的なニーズと地域的なニーズの適切な折り合いを見つけることだと、ヴァートヴァーラは指摘します。

「多様性、文化と政治的な変化、異なるライフスタイル、テレワークはすべて都市計画に影響を与えます」と、彼女は言います。「たとえば、一人暮らしだからといって必ずしも孤独なわけではありません。家族がいないという意味でもありません。彼らは小さなワンルームに住みたい、あるいは住む必要があるのかもしれません。家族構成の定義は様々なので、優れた都市計画にはあらゆる面で多様性が組み込まれています」

Photo: Sabrina Bqain



# フィンランドで働くために知っておくべきこと

フィンランドで就労目的のための在留許可を申請する場合、在留許可申請書は、職種別にありますので注意してください。

該当する申請書がわからない場合は、Application Finder を利用して調べてください。migri.fi

Enter Finland online service (enterfinland.fi) でオンラインの申請書類を利用するのが最も容易な方法です。Enter Finland を使用すると、審査開始後、審査の進捗状況をご自身で確認することができます。

**就労を根拠に初めての在留許可申請をする場合のプロセス:**

1. **在留許可の申請書を提出**
2. **フィンランド大使館、または領事館での本人確認手続き**
3. **申請の審査**
4. **必要に応じて、追加情報の提出**
5. **結果の通知**
6. **在留許可カードを受け取ってフィンランドへ!**

**知っておくと便利なこと:**

EU加盟国、アイスランド、リヒテンシュタイン、ノルウェー、スイス国籍者の場合は?

フィンランドの在留許可の取得は不要です。ただし住民登録は必要です。

帯同家族がいる場合は?

就労の在留許可を取得した場合、家族は帯同家族として在留許可を申請することができます。

ファストトラックの利用する場合は?ファストトラックの利用の可否は?

在留許可の申請の理由が以下に挙げている理由の場合、ファストトラックで手続きをすることが可能です。

- 専門職
- 企業内転勤、専門職または管理職 (ICT 在留許可)の場合
- EUブルーカード保持者
- スタートアップ起業家
- 経営者や中間管理職

帯同家族も主たる申請者と同時申請の場合に限り、ファストトラック申請が可能です。 ファストトラック申請の場合は、2週間で審査結果が出ます。

**追加情報:**

フィンランドでの暮らしと就労について: workinfinland.com

# ご存知ですか?

サーモンスープはフィンランド料理の定番です。家庭料理ですが、レストランのメニューにもよく登場します。

スープにはサーモンの他にジャガイモを入れるのが一般的で、クリームまたは水で煮込みます。ハーブのディルで風味付けしたサーモンスープは、ライ麦パンや、糖蜜と麦芽が入った少し甘いパンを添えて出されます。

フィンランドの国民的叙事詩カレワラには、サーモンを一日中食している記述があります。

本誌記事は各執筆者の責任に基づいて書かれています。
参考資料としてご自由にお使いください。
駐日フィンランド大使館:sanomat.tok@gov.fi

SUOMI
フィンランド

FINFO
Finland, Finns, Finnomena

this is FINLAND.fi
things you should and shouldn't know